



阪南2区人工干潟の

いきもの観察ノート



活動日： 年 月 日 ()

時 分 ~ 時 分

天気：

干潟のようす：

なまえ

目 次

阪南２区人工干潟ってなに？	1
ウエルカムリストってなに？	2
マテガイのとりかた	3
ハクセンシオマネキの観察のしかた	3
キケンな生きもの	4 ～ 5
魚類	6 ～ 9
甲殻類（エビ・アナジャコ・ヤドカリ・カニ）	10 ～ 13
軟体動物（ヒザラガイ・二枚貝・イカ・タコ・巻貝・ウミウシ）...	14 ～ 19
海綿動物	20
刺胞動物（クラゲ・イソギンチャク）	20
環形動物（ゴカイ）	21
鳥類	22 ～ 23
昆虫類・クモ類	24
陸地環境の歴史と陸上生物	25
陸上植物	26 ～ 27



阪南2区人工干潟ってなに？

岸和田市の沖合いには、阪南2区(ちきりアイランド)とよばれる埋立地があるよ。

そこにつくられたのが、阪南2区人工干潟！

さまざまな生きものたちのくらす場所となっているほか、水質をよくする力を強めるなどの役割もあるよ。

阪南2区(ちきりアイランド)



阪南2区人工干潟

場所

大阪府岸和田市岸之浦町

大きさ

5.4ha
(甲子園球場 1.4 個分)

できた日

2004年2月



阪南2区人工干潟

ウェルカムリストってなに？

（『大阪湾海岸生物ウェルカムリスト』）

おおさかわん かんきょうかいぜん ひがた もば せいび おおさかわんさいせい と く あたら
大阪湾の環境改善や干潟・藻場の整備など、大阪湾再生に取り組むことで、新
しく定着したり分布を広げたりすることが期待される生きものたちのリストだよ。

ウェルカムリストにのっているのは無脊椎動物と海藻・海草で、無脊椎動物は
172種が、海藻・海草は12種が選ばれているよ。

※ 無脊椎動物：背骨のない動物。貝類やエビ・カニ類、イソギンチャクなど。

このノートは『大阪湾海岸生物ウェルカムリスト（2022年版）』を元に制作しています。

＼ 検索！ ／

Q ウェルカムリスト

ウェルカム A ランク

大阪湾内で1950年以降の記録がほとんどないか、記録はないけど近くの海域では記録がある種。
生育・生息のための環境が不安定で、
なくなりやすい状態と考えられる種。

ウェルカム B ランク

大阪湾内の限られたところにしかおらず、
今後の分布の拡大が期待される種。

ウェルカム C ランク

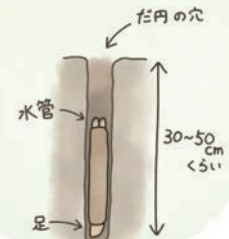
大阪湾内では多数の地点で記録があり、
かつ良好な環境（水質・底質・地形）の
目安となる種。



引用元：『大阪湾海岸生物ウェルカムリスト（2022年版）』

マテガイのとりかた

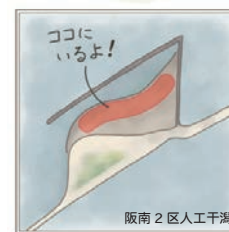
1 マテガイは二枚貝のなかま。
普段は砂の中にもぐっているよ。
だ円形の穴をさがそう。



2 穴に塩をいれると、マテガイが
穴から飛び出してくるよ。
すぐにつかもう！



3 しっかりつかんで、
ゆっくり引っ張り出そう！
伸びた長い足にご注目！



阪南2区人工干潟

ハクセンシオマネキの観察のしかた

1 ハクセンシオマネキはとても怖がり。
少しはなれたところで、
穴から出てくるのをじっと待とう。



穴に近づきすぎて
人の気配を感じると
出てこないよ



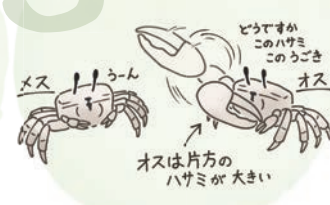
2 しばらくすると
穴から出てきて
活動を始めるよ。



ここで動くと
ビックリして穴に
かくれてしまうよ



3 春～夏はウェービングという
求愛行動が見られるかも。
ハサミの動きを観察しよう。



オスは片方のハサミが大きい



阪南2区人工干潟

! キケンな生きもの

長ぐつもつきぬけるすごい毒針

アカエイ



ヒレに仕込んだ毒針

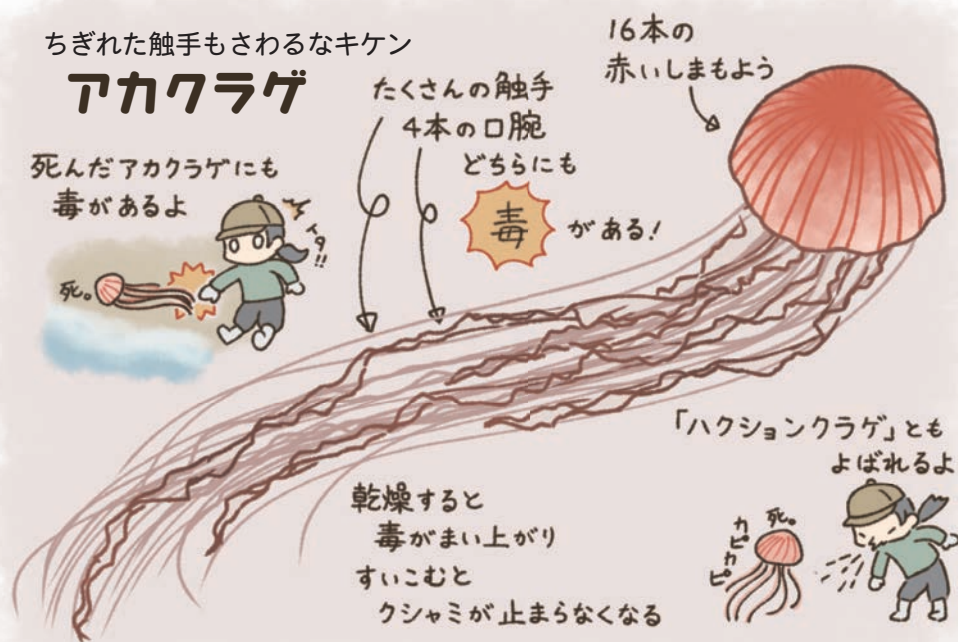
ゴンズイ



キケンな生き物を見つけたら、さわらずに、スタッフに声をかけてね

ちぎれた触手もさわるなキケン

アカクラゲ



岩にはりつくするどいやつら

カキ・フジツボ





魚類

干潟を成長の場所に行っている種では、主に稚魚が見られる。水中を泳いでいるもの、石の下や海藻・海草の中、海底にかくれているものなど、くらし方はさまざま。



アカエイ

アカエイ科

体盤幅約 50 cm

体は上下に平たく、背中中は褐色。眼の周りだけを水中に出して、砂にもぐっていることも多い。尾の付け根には、有毒のすどいトゲがある。



クロサギ

クロサギ科

体長約 20 cm

前下方に伸びる口で、砂の中の小さな生きものを食べる。銀色に光る大きなウロコははがれやすい。水中で時折急に止まるような泳ぎ方をする。



クロダイ

タイ科

体長約 60 cm

関西では「チヌ」と呼ばれる。体色は黒みがかった銀色。稚魚から若い成魚には、目立つ横じまがある。初夏から夏にかけて稚魚が見られる。

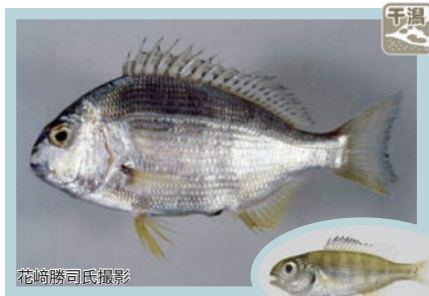


ボラ

ボラ科

体長約 60 cm

成魚は体の側面にたてじま、胸びれの根元に青いもようをもつ。稚魚は背中が暗色、側面が銀色で、目立ったもようは無い。水面からよく飛びあがる。



ヘダイ

タイ科

体長約 40 cm

丸みのある頭をしている。よく似たクロダイの仲間よりもしりびれの条数が多いため、しりびれの幅が少し広い。夏のはじめごろに稚魚が見られる。



コトヒキ

シマイサキ科

体長約 30 cm

体色は銀色で、弓のように曲がったたてじまをもつ。つかまえられると、うきぶくろを使って「グッ」と音を出す。

《魚の「たてじま」と「横じま」》魚にはしまもようのあるものがたくさんいる。魚も人間と同じように頭を上として「たて」「横」を考えるため、頭から尾にかけてのもようは「たてじま」、背中から腹にかけてのもようは「横じま」と呼ぶ。



メジナ

メジナ科

体長約 50 cm

関西では「グレ」と呼ばれる。体色は灰色をしているが、色合いには変異がある。初夏から夏にかけて、群れた稚魚が見られる。



ダイナンギンボ

タウエガジ科

体長約 30 cm

体は褐色のものが多いが、黄色や白っぽいものもある。えらぶたの上に、中心が黄色い丸いものがある。石の下やすき間にかくれている。



ニジギンボ

イソギンボ科

体長約 10 cm

体の側面に褐色の太いたてじまがある。海藻の周りや、岩に付いた貝殻のすき間、水中に垂れたロープなどの周りで見られる。

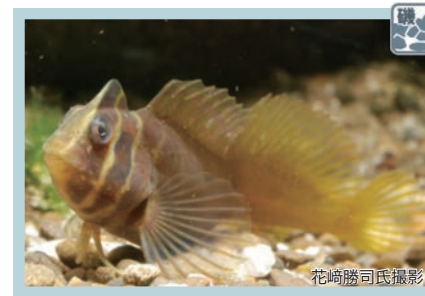


ムスジガジ

タウエガジ科

体長約 14 cm

眼から後ろに向かう 2 本の帯と、しましまの胸びれが特徴。体色は褐色だが、まだらもようが出ることもある。石の下やすき間にかくれている。



トサカギンボ

イソギンボ科

体長約 6 cm

頭の上に、とさかのような突起がある。体の前半分は茶褐色だが、尾に向かってだんだんに黄色くなる。石のすき間やカキ殻の中にかくれている。



マハゼ

ハゼ科

体長約 20 cm

体色は淡褐色で不規則なまだらもようがある。背びれと尾びれには、黒く細かい斑点が入る。ハゼの仲間の腹びれは、吸盤状になっている。



アカオビシマハゼ

ハゼ科 体長約 8 cm

体色が薄いときは体の側面に 2 本のたてじまがあり、濃くなると横じまが出る。臀びれに赤褐色の模様がある。石の下やすき間にかくれている。



ウロハゼ

ハゼ科 体長約 20 cm

下あごの先は、上あごよりも前に出る。体の側面に暗褐色のまだら模様があり、背中に鞍（くら）のような形のもようがいくつかある。



スジハゼ

ハゼ科 体長約 8 cm

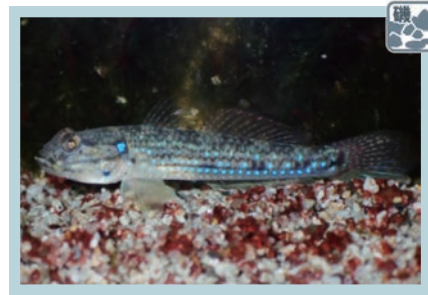
ツマグロスジハゼに似るが、腹びれの先は明確に黒くはならない。一番前の背びれに黒い模様があり、胸びれの付け根の下側のもようは短い棒状。



チチブ

ハゼ科 体長約 8 cm

背びれの一部分が糸状にのびる。体の色がよく変化する、全体が黒褐色になる場合や、淡褐色の体色にたてじまが出る場合などがある。



ツマグロスジハゼ

ハゼ科 体長約 5 cm

体側に青く光る斑点がある。腹びれの先が黒く縁取られることが多い。テッポウエビの仲間と共生していることがある。



ヒメハゼ

ハゼ科 体長約 7 cm

背びれと尾びれには、茶褐色のだ円形のもようがならぶ。産卵期のオスは、ほほが黒くなる。波打ち際ですばやく泳ぐ稚魚がよく見られる。



ニクハゼ

ハゼ科 体長約 6 cm

細い体形をしたハゼ。口が大きく、その後ろの端は眼の後ろを超える。海藻や転石の周りで、群れを作って泳いでいる。



アイゴ

アイゴ科 体長約 30 cm

体色は茶褐色で、多数の白い斑点がある。環境の違いなどにより、まだら模様が出ることもある。背びれ、臀びれ、腹びれのトゲに、毒腺がある。



アミメハギ

カワハギ科 体長約 6 cm

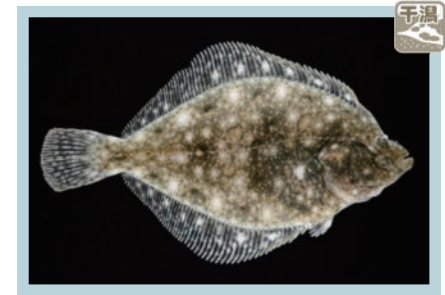
褐色の体にたくさんの白から水色のもようが入り、網目もようになる。海藻の周りや、水中にたれたロープなどのまわりで見られる。



ドロメ

ハゼ科 体長約 10 cm

成魚は頭がやや平たい。暗灰色の体に白い斑点がたくさん入り、尾びれは白く縁取られる。成魚は単独で生活し、稚魚は群れていることが多い。



イシガレイ

カレイ科 体長約 50 cm

ウロコがなく、つるつるとした手ざわり。成魚は硬い石のような骨板をもち、名前の由来になっている。



クサフグ

クサフグ科 体長約 15 cm

体色は背中が暗緑色で、たくさんの白い斑点がある。砂にもぐってかくれることがある。卵巣、肝臓、腸は猛毒、皮膚は強毒、筋肉と精巣は弱毒。



甲殻類〈エビ類〉

ハサミと歩脚を合わせて10本ある十脚類のなかま。
キチン質の殻をもち、脱皮をして成長する。
礫のすき間や砂底に生息し、巣穴をもつものもいる。



クルマエビ

クルマエビ科 体長約 15 cm

体にしまもようがあり、体を丸めると車輪のように見えるのが名前の由来。干潟の砂泥底で稚エビが時折り見つかる。



ヨシエビ

クルマエビ科 体長約 15 cm

クルマエビ科の中では阪南2区で一番多く見つかっている。この仲間は5対10本の歩脚のうち前の3対がハサミ脚となるが、いずれも小さい。



クマエビ

クルマエビ科 体長約 20 cm

大きくなるとアジアカと呼ばれ、脚の赤色が目立つ。阪南2区では体色が緑色の稚エビが見つかった。



スジエビモドキ

テナガエビ科 体長約 3 cm

半透明な体に不明瞭な黒い横じまが腹節にある。群れで見つかることが多い。



テッポウエビ属の一種

テッポウエビ科 体長約 5 cm

敵への威嚇（いかく）行動として、大きなハサミで「パチン！」と破裂音を出す。砂泥底に巣穴を掘り、ハゼ類と一緒にすんでいる。



セジロムラサキエビ

テッポウエビ科 体長約 1.5 cm

体は朱色で、背中に1本の白線が頭から尾にかけて走る。ハサミ脚はカマキリのように二つ折りにしている。

甲殻類〈アナジャコ類〉



ハルマンスナモグリ

スナモグリ科 体長約 5 cm

ハサミ脚は左右で大きさが異なる。姿や生態がよく似たニホンスナモグリよりも黒眼が大きいのが特徴。



コブヨコバサミ

ヤドカリ科 体長 6 cm

ハサミは左右はほぼ同じ大きさで、歩脚にオレンジ色の筋をもつのが特徴。大型種で、アカニシやツメタガイの殻を宿にしていることが多い。



ユビナガホンヤドカリ

ホンヤドカリ科 体長約 2 cm

ハサミは右が大きい。歩脚の先の節が長いのが名前の由来。ウミナナの殻を宿にすることが多く、数の多いヤドカリ。



アナジャコ

アナジャコ科 体長約 10 cm

市場に並ぶシャコとは別のグループ。砂泥地に深さ 50 cm ~ 1 m の Y 字型の巣穴を掘る。



イザナミツノヤドカリ

ホンヤドカリ科 体長約 1.5 cm

ハサミは左が大きい。歩脚は細く、毛が生える。2006年に新種となったヤドカリで、大阪湾では阪南2区で初めて見つかった。



ヨモギホンヤドカリ

ホンヤドカリ科 体長約 2 cm

ハサミは右が大きく、歩脚の先の節に黒い帯がある。冬期に見られるヤドカリで、夏期は石の下で仮眠をする。



甲殻類〈カニ類〉



マメコブシ

コブシガニ科 甲幅約 2 cm

コロッとした半球状の体特徴的。ヨコ歩きだけでなく、タテにも歩く。近づくに砂にもぐって身をかくす。二枚貝などを食べる肉食性。



イッカクモガニ

イッカクモガニ科 甲幅約 1.5 cm

二等辺三角形のような甲羅（こうら）で、先は角のようにとがる。クモのような細長い脚をもつ。アメリカが原産地の外来種。



ヒメベンケイガニ

ベンケイガニ科 甲幅約 1 cm

四角い甲羅の小形のカニ。全身に長短の毛が生えており、ハサミ脚の先は赤色。岩のすき間で見つかる。



ヒライソガニ

モクスガニ科 甲幅約 3 cm

甲羅は平たくすべすべで、色やもようはさまざま。オスのハサミ脚は大きくなる。転石の下やすき間で見つかる。



マキトラノオガニ

ケブカガニ科 甲幅約 1.7 cm

扇形の甲羅で、甲面に短毛が生える。ハサミ脚は左右どちらかが大きい。石の下で見つかる。



イシガニ

ガザミ科 甲幅約 8 cm

泳ぎの得意なワタリガニの仲間で、一番下にある脚はオール状。強力なハサミ脚をもっているの素手で触るのは危険。



ケフサイソガニ

モクスガニ科 甲幅約 3 cm

オスのハサミに生える毛の束（毛房）が名前の由来。内湾の淡水の影響を受ける干潟の石の下で見つかる。



コメツキガニ

コメツキガニ科 甲幅約 1 cm

小型の丸っこいカニ。巣穴から出てきて、地表の砂を口に入れ、エサをこしとった後の砂は砂団子にして周りに捨てる。



タイワンガザミ

ガザミ科 甲幅約 12 cm

だんじり祭りのごちそうに欠かせないワタリガニの一種。オスは青みを帯びた派手な体色をした南方系のカニ。



オウギガニ

オウギガニ科 甲幅約 3.5 cm

扇形のがつりとした甲羅で、色の変異が多い。捕まえるとハサミ・歩脚を丸めて死んだふりをする。



オサガニ

オサガニ科 甲幅約 3.5 cm

横長の甲羅をもち、眼（眼柄）がとても長い。潮通しの良い内湾の砂泥質干潟に、斜めに巣穴を掘ってすむ。



ハクセンシオマネキ

スナガニ科 甲幅約 1.8 cm

オスのハサミは左右どちらかが巨大化し、繁殖期にはメスをさそうハサミふりダンスを行う。その様子は白い扇子をふるように見える。





軟体動物〈ヒザラガイ類〉



ヤスリヒザラガイ

ウスヒザラガイ科 体長 3 cm

普段は石の下に隠れており、石をひっくり返すと見つかる。さわるとザラザラしたヤスリのような触感があり、名前の由来となっている。

体は小判型で、背中に 8 枚の殻をもつ。
岩場にすんでおり、強い力でくっついている。
ほとんど動かない。



ヒザラガイ

クサズリガイ科 体長 6 cm

ヒザラガイの仲間の中では大型に成長する。石にくっつく力が強く、取り外すのに苦労する。



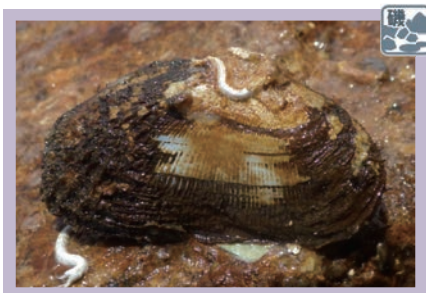
ケハダヒザラガイ

ケハダヒザラガイ科 体長 6 cm

殻は肉に埋もれており、少ししか見えない。体の両側に 9 対のトゲの束が並ぶ。



軟体動物〈二枚貝類〉



カリガネエガイ

フネガイ科 殻長 5 cm

殻の表面は放射状に細かく盛りあがり、黒っぽい皮でおおわれる。石をひっくり返すとついていることが多い。



ホトトギス

イガイ科 殻長 2 cm

殻がホトトギス（鳥）の腹の模様に似ていることが名前の由来。足糸と呼ばれる器官を出し、砂や泥底をマット状におおう。

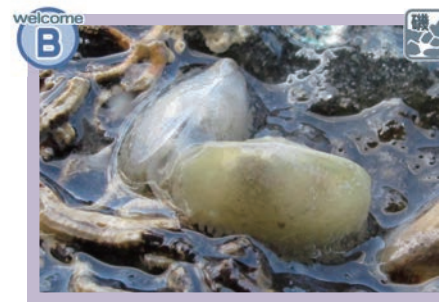
軟体動物〈二枚貝類〉



ソトオリガイ

オキナガイ科 殻長約 3 cm

殻は細長い円形で白い。干潟の砂をスコップでほると見つかる。殻がうすく割れやすい。



ニッポンマメアゲマキ

ウロコガイ科 殻長約 1 cm

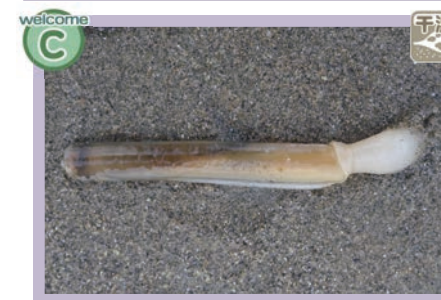
殻の色は白とうすい黄色の 2 つのタイプがある。泥に埋まった石をひっくり返すと密集した状態で見つかることが多い。



ユウシオガイ

ニッコウガイ科 殻長約 1 cm

殻は白、うすい黄色、桃色。アサリをほすと一緒にとれる。ツヤがあり、美しい見た目をしている。



マテガイ

マテガイ科 殻長約 10 cm

細長い殻をもつ。普段は砂中に深くもぐっているが、巣穴に塩を入れると表に飛び出してくる。美味。



アサリ

マルスダレガイ科 殻長約 3 cm

砂や泥中にもぐり、水中のプランクトンを食べて生活している。殻の模様はバリエーションがある。



クチバガイ

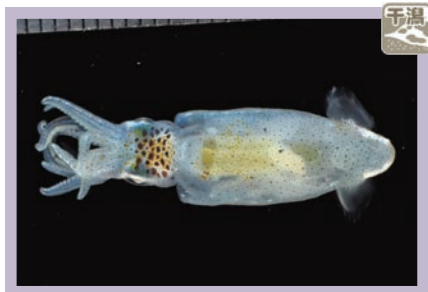
チドリマスオ科 殻長約 2 cm

殻は枯れた葉っぱのような茶色い皮でおおわれる。潮が引くと干上がる砂地に浅くもぐって生活している。



軟体動物〈タコ・イカ類〉

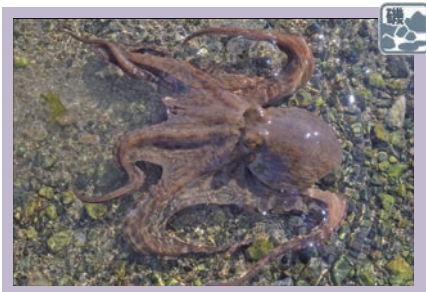
殻が完全になくなっていくものがほとんど。柔らかい体を使って海中をすばやく動くことができる。



ヒメイカ

ヒメイカ科 体長約 2 cm

アマモや海藻が生えている場所にすむ小型のイカ。細長い体の後ろ側に耳状の小さなひれがある。



マダコ

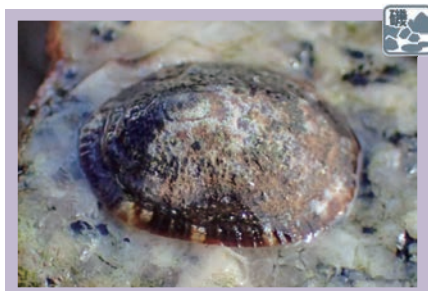
マダコ科 体長約 50 cm

アサリやカニ類を好んで食べる。タコがかくれている岩の周りには貝殻が集まっていることが多く、探すときの目印になる。泉州地方では「泉ダコ」と呼ばれている。



軟体動物〈巻貝類〉

殻はくるくると巻くらせん状で、口にはふたをもつのが基本。傘型のものもある。



ヒメコザラ

ユキノカサガイ科 殻長約 1 cm

傘のような形をした殻をもつ。岩の表面にはりついていることが多い。海藻類を食べる。



コウダカアオガイ

ユキノカサガイ科 殻長約 3 cm

傘型の巻貝。ヒメコザラよりも大きく、殻の表面は細かい突起でおおわれる。緑がかった黒色をしている。

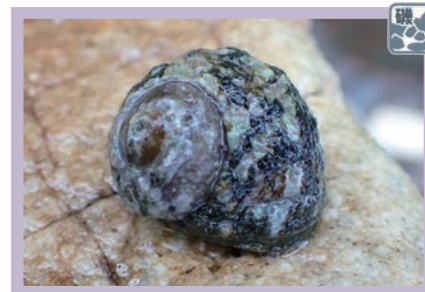


イシダタミ

ニシキウズ科 殻長約 1.5 cm

殻の表面に石だたみを敷きつめたような模様がある。スガイやコシダカガンガラと同じ場所で見つかる。

軟体動物〈巻貝類〉



スガイ

サザエ科 殻高約 3 cm

サザエのなかまで、殻口に石灰質のふ厚いフタをもつ。殻にカイゴロモという緑色の海藻をつけていることがある。



コシダカガンガラ

パテイラ科 殻高約 3 cm

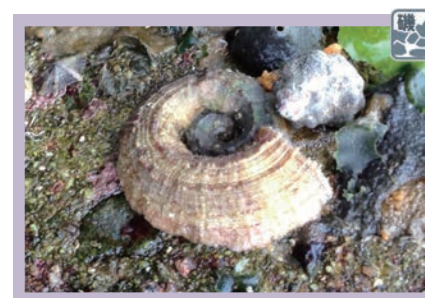
殻は灰色で、表面に線状の盛りあがりがある。下から見ると殻は白色で、真ん中に穴が空いている。



ウミニナ

ウミニナ科 殻高約 3 cm

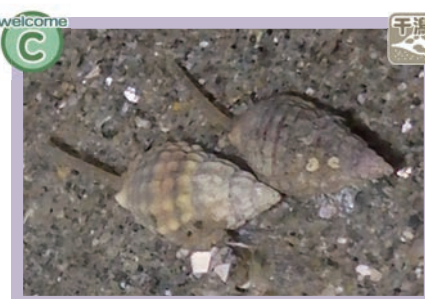
細長い円すい形をした巻貝で、足のふみ場もないほどたくさんいる。ごくまれにイボウミニナが混じっていることがある。



オオヘビガイ

ムカデガイ科 殻径約 6 cm

巻貝の仲間だが、殻を岩に付着させて生活する。殻口から粘りけのある糸を出し、それに付着するものを食べる。



アラムシロ

ムシロガイ科 殻長約 2 cm

普段は砂や泥にもぐっているが、死んだり弱っている生き物が近くにいるとそれらを食べるために姿をあらわす。



アカニシ

アッキガイ科 殻長約 5 cm

大型に成長する巻貝。アサリなどの二枚貝を食べる。食用になる。



軟体動物 〈巻貝類 (ウミウシ類)〉

巻貝のなかま。固い殻をもつものから、まったくもないものまでさまざま。石や海藻の上、砂底などに生息している。



マメウラシマ

マメウラシマ科 体長約 5 mm

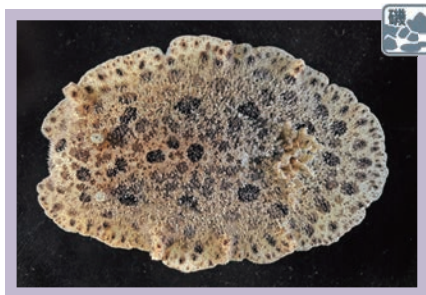
小型だがしっかりとした厚みのある殻をもつ。殻も体も白色。干潟の泥をザルでふるうととれる。



ヤマトウミウシ

ドーリス科 体長約 5 cm

黄色い体で、背中では大小さまざまな突起でおおわれる。ダイダイイソカイメンなどを食べる。春になると岩場にピンク色の卵を産む。



ツツレウミウシ

ツツレウミウシ科 体長 5-10 cm

体は灰色で、触角からえらにかけてチョコレート色の丸い斑点が規則的に並ぶ。夏～秋にかけてよく見つかる。



クロコソデウミウシ

フジタウミウシ科 体長約 2 cm

体は白色だが、黒色の小さな斑点でおおわれるため全体は黒っぽく見える。外来種で、パイやロープなどにつくフサコケムシを食べる。

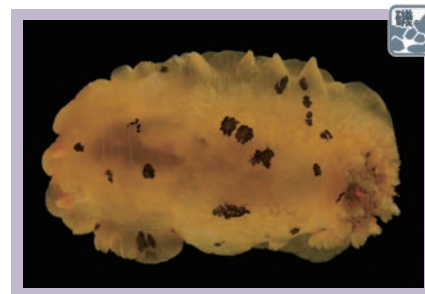


クロシタナシウミウシ

クロシタナシウミウシ科 体長約 5 cm

体は黒色で、周りは黄色く縁取られることがある。触角もえらも体と同じ色で目立たない。体はやわらかい。

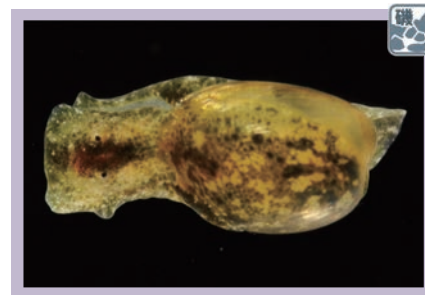
軟体動物 〈巻貝類 (ウミウシ類)〉



マダラウミウシ

クロシタナシウミウシ科 体長約 5 cm

体は橙色で、背面に黒色の斑点がちらばり、まだらもようとなる。体はやわらい。カイメン類を食べる。



ブドウガイ

ブドウガイ科 体長 1-2 cm

体は緑褐色で、黒、白、橙色の斑点でおおわれる。体の後ろに殻をもち、ブドウの果実のような見た目をしている。さわるとぬるっとする。



イズミミドリガイ

チドリミドリガイ科 体長約 1 cm

頭と尾は黒っぽく、体は緑色をしている。春ごろに石の表面に生えている緑色の海藻をよく観察すると見つかる。和泉の名を冠したウミウシ。



ヤツミノウミウシ

ヨツスジミノウミウシ科 体長約 1 cm

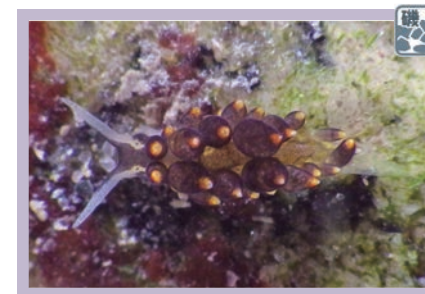
背中にみの状の突起をたくさんもつ。石をひっくり返して、その裏面を注意深く探すと見つかる。全体的に黒っぽい色合いをしており、目立たない。



アメフラシ

アメフラシ科 体長 10-15 cm

最大 30 cm ほどになる。体は黒っぽく、白い斑点でおおわれる。春先に「ウミソウメン」と呼ばれる卵を産む。さわると紫色の汁を出す。



アリモウミウシ

ハダカモウミウシ科 体長約 5 mm

全体的に黒っぽい色合いで、眼の周りや触角は白色、背中にはえら突起の先は橙色をしている。アリのよう小さい。



海綿動物

岩や人工物などかたい基質にくっついて生活する。体の表面にある小さい穴から海水を吸い込み、プランクトンなどをこしとって食べる。形や色、大きさは種類によりさまざま。



コルクカイメンのなかま

コルクカイメン科

黄色っぽい色合いをしており、石をひっくり返すとついている。このカイメンを食べるウミウシがいるよ。



クロイソカイメン

イソカイメン科

黒っぽい色合いで、石の表面にくっついている。表面はなめらかで、海水を出し入れする穴がよく目立つ。



刺胞動物〈クラゲ類 イソギンチャク類〉

水中をただよって生活するものや、基質にくっついて生活するものまでさまざま。刺胞と呼ばれる小さな毒針をもつのが特徴。



ミズクラゲ

ミズクラゲ科 傘の直径 約 15 cm

大阪湾でもっともよく見られるクラゲのなかま。半透明の傘には4つの白いリング状の生殖腺が透けて見える。



タテジマイソギンチャク

タテジマイソギンチャク科 体の直径 約 2 cm

体は濃い緑色で、黄色からオレンジ色のたてじまをもつものが多い。石の下やマガキの殻によくくっついている。



シオガマサンゴ

シオガマサンゴ科 体の直径 約 2 cm

単体のサンゴのなかま。水深 5-10 m ほどの少し深いところにすむ。まれに干潟にある岩場からも見つかる。

体節と呼ばれる節状の体がつながったつくりをしている。砂や泥の中にもぐって生活する種や石の裏にくっついて生活するものがある。



サミドリサシバ

サシバゴカイ科 体長約 5 cm

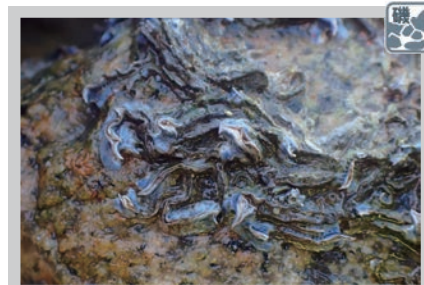
石をひっくり返すとその下から見つかる。体は鮮やかな緑色でよく目立つ。



ツバサゴカイ

ツバサゴカイ科 体長約 20 cm

泥中にU字型の巣をつくる(白矢印)。まれにこの巣の中にバンズマメガニが共生していることがある。体は白色でとてももろい。



ヤッコカンザシ

カンザシゴカイ科 体長約 1 cm

石の表面や裏に固い石灰質の棲管(せいかん)をつくり、その中で生活する。

環形動物〈ゴカイ類〉



サンハチウロコムシ

ウロコムシ科 体長約 3 cm

背面は12対24枚のウロコでおおわれる。石の下にある貝殻やゴカイ類の棲管(せいかん)のすき間に隠れていることが多い。



タマシキゴカイのなかま

タマシキゴカイ科 体長約 10 cm

泥の中にもぐって生活する。干潟表面でよく見つかるうどんのような細長い砂の固まりは糞で、丸いゼリー状のかたまりは卵塊(らんかい)。



ミズヒキゴカイのなかま

ミズヒキゴカイ科 体長約 4 cm

体は泥の中にかくれており、干潟の表面に薄い赤色の細長い糸をのばし、エサをあつめる。



鳥類

干潟といえば、シギやチドリのなかまが代表的な種。
 阪南2区は狭い干潟のため、人が立ち入るとそれらはすぐに飛び去ってしまう。



一年中

カワウ

ウ科

全長 82 cm

海辺のほか池や川などでもよく見られる大型の鳥。魚食。大阪南部では1月ごろから池近くの林に巣をつくって集団繁殖する。



一年中

アオサギ

サギ科

全長 93 cm

水辺のサギ類のなかではもっとも体が大きく、池や川でも見られる。魚食。近年個体数が増加している。



一年中

トビ

タカ科

全長 ♂ 59 cm, ♀ 69 cm

海岸でよく見られるが、丘陵地から山地でも見ることができる。雑食。身近な鳥といわれているが大阪府内ではあまり多くない。



一年中

ダイサギ

サギ科

全長 90 cm

「白鷺」とよばれるサギのなかでもっとも体の大きなサギ。魚食。池や川などでも見られる。内陸の林で、他のサギ類と一緒に樹上で繁殖する。



一年中

ミサゴ

ミサゴ科

全長 ♂ 54 cm, ♀ 64 cm

海岸のほか、丘陵地や平地の池でもよく見られる。魚食。繁殖は、山地の林や送電線の鉄塔で行われる。



一年中

スズガモ

カモ科

全長 45 cm

阪南2区には毎年11月から翌年3月初旬まで見られる。府内でもっとも大きな群れが見られる。潜水して貝類などを食べる。

ここでは大きくて目立つ鳥、人がいてもあまり逃げない鳥、観察しやすい鳥、たくさんいる鳥など、はじめての方でも見やすい鳥を紹介する。



一年中

ウミアイサ

カモ科

全長 55 cm

波静かな内湾にいる。オスは頭が緑色光沢のある黒色、メスは頭が茶色。潜水して魚を食べる。数羽単位で見られる。



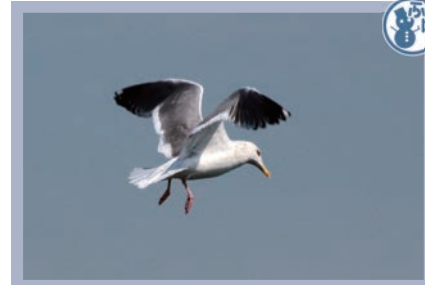
一年中

ハマシギ

シギ科

全長 21 cm

11月ごろと2月ごろに100羽程度の群れが見られる。標識調査により、アラスカノースロープ州から飛来しているものが確認された。



一年中

セグロカモメ

カモメ科

全長 61 cm

大型のカモメでこのあたりではもっとも多く見られる。10月から翌年4月ごろまで見られる。あしはピンク色。



一年中

カンムリカイツブリ

カイツブリ科

全長 56 cm

阪南2区では11月から翌4月初旬まで見られる。近年、久米田池で繁殖が確認されているが、基本的には冬鳥。



一年中

ユリカモメ

カモメ科

全長 40 cm

日本で見られる小型のカモメ類のほとんどは本種。成鳥はあしが赤い。天候が悪いときは内陸部のため池でも見られる。



一年中

コアジサシ

カモメ科

全長 22-28 cm

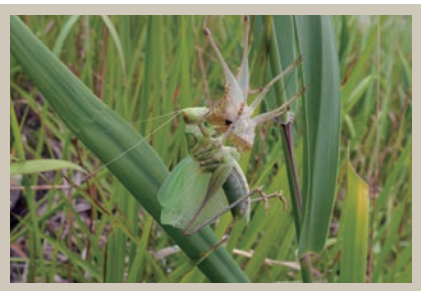
阪南2区では5月から7月ごろまで見られる。埋立地や干潟の地面で子育てをする。



昆虫類・クモ類

昆虫類は、平地の草原環境に生息するキリギリスやカマキリ、カメムシ、甲虫の仲間が中心。ヨシが多く生育するので、それと関係の深い種がいくつか見られる。地表で見つかる甲虫は、体長 2-5 mm ほどの小型種がほとんど。海岸でしか見られない種もいる。

クモ類は、地表や植物上を歩き回るコモリグモやハエトリグモの仲間が中心。網を張るコガネグモやアシナガグモの仲間なども見つかり、その中にはレッドリストに選定されている稀少種も含まれる。



キリギリス

キリギリス科

体長 25-40 mm

平地から山地にかけての明るい草地に生息する。最近では、ニシキリギリスとヒガシキリギリスの2種に分ける考え方が有力。



ジュウサンホシテントウ

テントウムシ科

体長 5.6-6.2 mm

テントウムシの仲間だが、やや細長い体型をしている。海岸や河川敷などにあるヨシやマコモなどが生える湿った草原に生息し、モモコフキアブラムシを捕食する。大阪府レッドリスト準絶滅危惧種。



〈 海岸性甲虫類 〉

- ① カンジンナギサナギサハネカクシ
- ② アカバアバタウミベハネカクシ
- ③ ハマベエンマムシ

①② ハネカクシ科 ③ エンマムシ科

海岸性甲虫は、阪南2区人工干潟では干潮時に現れる転石や海藻の下、打ち上げられた海藻や木くずの中、少し高い位置にある海浜植物の根際で見つかる。トビムシ類やハエトリグモの幼虫など小型節足動物、あるいは腐った海藻などを食べる。



陸地環境の歴史と陸上生物

2004 年	人工干潟の造成が始まる。 ヨシの生育実験が行われる。今あるヨシのルーツ。
2017 年	波による浸食で陸地が減少したために再覆砂が行われた。砂の流出を防ぐ新規突堤を設置。
2025 年	陸地形状がほぼ安定。ヨシやチガヤの草原の前面に砂浜が広がり、海流で運ばれてきた海浜植物を受け入れる態勢が整った。毎年 50 種程度、2009 年からこれまでに、110 種ほどの植物が記録されているが、最初に植えられたヨシを除くと、どれも風や海流、動物により運ばれて来た植物たちである。



ヨシ



チガヤ



ナンキンハゼ

陸上植物

…… 海浜植物

…… 海岸によく見られる植物



コウボウムギ

カヤツリグサ科 多年草、花期：春
長い地下茎の先に硬く細長い葉を放射状に広げる。別名「筆草」で、和名と共に、葉鞘の繊維を筆の材料にしたことによる。大阪府絶滅危惧植物。



ネズミホソムギ

イネ科 多年草、花期：春
ヨーロッパから牧草として入ってきた外来種だが、海岸にもよく見られる。1本の穂が長くのび、互い違いに小穂がつく。



ハリノホ

イネ科 一年草、生育期：春～夏
地中海沿岸原産の外来種。曲がった針金を束ねたような姿が特徴的。何年前には、よく似たスズメノナギナタが生育していたこともある。



コマツヨイグサ

アカバナ科 一年草～多年草、開花期：周年
街中にも多いが、海岸には必ずと言ってよいほど見られる。マツヨイグサの仲間は茎が立ち上がるものが多いが、本種は横に広がる。



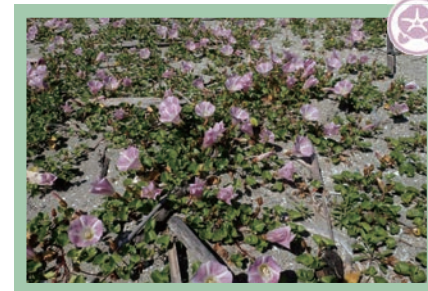
オカヒジキ

ヒコ科 一年草、生育期：春～秋
多肉質の葉で海藻のヒジキに似た姿になる。夏に葉の付け根に小さい黄色の花をつける。種子は枯れた植物体に包まれて海流散布。食用にされる。



ツルナ

ハマミズナ科 多年草、生育期：周年
多肉で海岸の砂地に生え、若い茎や葉は食用にもされる。花は小さく黄色。果実は1cm弱の王冠形で、スポンジ状の組織に包まれて海流散布する。



ハマヒルガオ

ヒルガオ科 多年草、花期：初夏
茎は砂上や砂中を這い、腎臓型でつやのある葉をつける。6月頃、葉腋からピンク色の花が立ち上がる。大阪湾の砂浜海岸に広く見られる海浜植物。



ガガイモ

キョウチクトウ科 多年草、花期：夏
細長いハート形の葉を対につける蔓草で、ちぎると白い乳が出る。種子繁殖の他、横走する根から茎を立ち上げて増えている。



ハマボウフウ

セリ科 多年草、花期：初夏
砂中に埋もれた茎から、分厚くてつやのある複葉を砂上に広げる海浜植物。大阪府絶滅危惧植物。刺身のつま用に栽培されることもある。



アメリカネナシカズラ

ヒルガオ科 一年草、花期：夏～秋
北米原産の外来種。葉緑素をもたない寄生植物。黄色～オレンジ色の細長い茎で他植物に巻き付き、吸盤で栄養吸収する。



ナルトサワギク

キク科 多年草、花期：周年
マダガスカル原産の外来種。道路の法面などに大繁殖し、在来植物の脅威となるとして特定外来植物に指定されているが、ここでは減少傾向にある。



ハマウド

セリ科 多年草、花期：春～初夏
海岸に生える大型の多年草で、開花茎は1m以上になる。当地では、チガヤ草原に埋もれて生育が遅れているが、開花が待たれる。

[illegible]

今日撮った生き物や家族の写真をはろう！

[illegible]

執筆担当者一覧（五十音順）

岡本 素治（きしわだ自然資料館 館長）	p.25 ～ 27
風間 美穂（きしわだ自然資料館 学芸員）	p.22 ～ 23
柏尾 翔（きしわだ自然資料館 学芸員）	p.1 ～ 5, p.14 ～ 21
河上 康子（大阪市立自然史博物館 外来研究員）	p.24
木曾 結日（きしわだ自然友の会 評議員）	p.1 ～ 5
中村 進（きしわだ自然資料館 専門員）	p.22 ～ 23
平田慎一郎（きしわだ自然資料館 学芸員）	p.24
藤本龍之介（きしわだ自然資料館 アドバイザー）	p.6 ～ 9
山田 浩二（貝塚市立自然遊学館 学芸員）	p.10 ～ 15

阪南 2 区人工干潟のいきもの観察ノート

2026 年 3 月 31 日 初版発行

作成 きしわだ自然資料館

印刷 公益財団法人 大阪府都市整備推進センター